



「のぶすま」は高尾山頂にある高尾ビジターセンターにて配布しております。ご希望の方は窓口へお申し付けください。

高尾山4コマ漫画 その24

解説員アラツの世界名作シリーズ
最後のひと葉かしら？の巻

作・画：ばん



※カシワは冬になっても、樹から枯葉が落ちずに残っています。(ただし、樹齢が高い樹は落葉する傾向があります。)

季刊高尾ビジターセンターニュースレター
「のぶすま」2012年秋号Vol. 32
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成
2012年10月20日発行
所在地：〒193-0844東京都八王子市高尾町2176
電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926
URL：http://www2.ocn.ne.jp/~takao-vc/
(カラー版最新号を閲覧できます)

「秋」の一言

紅葉の季節。この時期の高尾山は大混雑するので御注意！

季節のみどころ

10月	花：イヌショウマ(1号路、6号路)、ツリフネソウ(1号路、6号路)、アズマヤマアザミ(全コース)、トネアザミ(全コース)、オクモジハグマ(1号路、4号路、6号路)、カシワバハグマ(全コース)、ノコンギク(全コース)、ヤクシソウ(1号路、稲荷山)、アキノキリンソウ(1号路、稲荷山) 実：ガマズミ(全コース)、ミヤマシキミ(全コース)、コナラ(1号路、稲荷山)
11月	花：ヤクシソウ(1号路、稲荷山)、アキノキリンソウ(1号路、稲荷山) 実：マユミ(1号路、稲荷山)、イギリ(全コース)、ムラサキシキブ(稲荷山)、サルトリイバラ(1号路、稲荷山)、アオツヅラフジ(稲荷山)
12月	実：アオキ(全コース)、キジョラン(1号路、稲荷山)、ミヤマフユイチゴ(1号路、6号路)、ヤブコウジ(稲荷山)

秋が深まると、花は殆んど終わってしましますが、赤や青に熟した木の実が山を彩ります。

ビジターセンター通信

9/29「自然を守るレンジャーたいけん！」実施報告

親子対象のイベント。高尾山で活躍する東京都レンジャーと一緒に歩き、自然の調査や植物保全のための看板設置などの活動を体験しました。植物の匂いを嗅いだり、クモを観察したりと自然も堪能。お昼休みにはリスも姿を見せてくれました。自然を楽しみながら、それを守る活動の大切さも理解できた一日でした。



これからの行事予定

12/8日(土)高尾山でムササビに会おう

夜の薬王院境内でムササビを観察し、その生態を学ぶ。

12/9日(日)山登りのマストアイテム！「地図」の読み方
地図が読めるようになり、登山がより楽しくなる。

1/12日(土)まるごとムササビ観察

ムササビの生態や観察方法を座学と野外観察で学ぶ。
※往復はがきでの応募となります。詳細はホームページ、またはお電話でご確認下さい。



イロハモミジ

②

オニグルミ

高尾山の いろんな葉っぱ



④

カツラ



③

ケヤキ



⑤

ホオノキ



⑥

アカガシ

高尾山の秋といえば 紅葉ではありません

高尾山の山中の葉が色づく秋。赤いモミジが目につきますが、葉っぱの魅力はそれだけじゃないんです…。

※①は紅葉、②～⑤は黄葉、⑥は色がかわりません。



のぶすま

季刊 高尾ビジターセンターニュースレター

2012年秋号

Vol. 32

「のぶすま」とは、ムササビの古い呼び名です。高尾山に住む人気者のムササビにあやかっ、て、「のぶすま」とつけました。

葉っぱのちがい

高尾山にはたくさんの種類の葉っぱがあります。ここでは大まかに3つの種類にわけて見てみましょう。これがわかれば、ちょっと葉っぱの表情がちがって見えてくるかも！？

落葉広葉樹

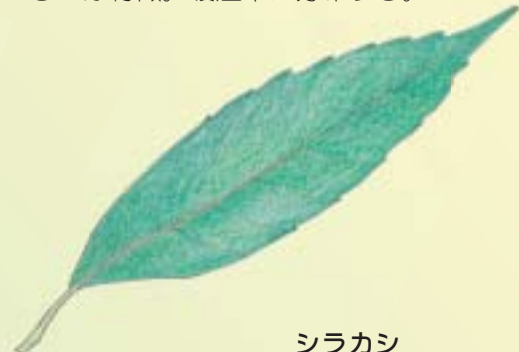
毎年秋から冬にかけて葉を落とし、春にまた新しい葉を出す種類。冷温帯に分布する。



ブナ

常緑広葉樹

落葉樹と違い、葉が落ちるまでに1年から3年くらいかかる。葉が一年中緑色をしていて、表面がつるつるしているのが特徴。暖温帯に分布する。



シラカシ

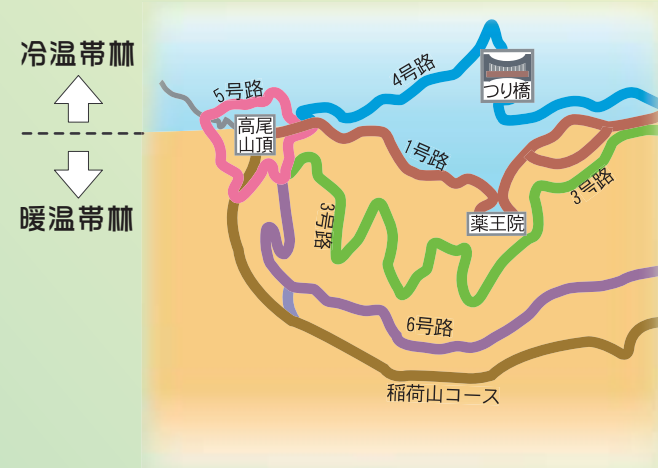
針葉樹

そのほとんどが"針"のように細い葉を持っている。常緑広葉樹のように一年中、葉が緑色をしているものが多い。



カヤ

“落ち葉ウォーク” ノススメ



高尾山の森は冷温帯林（比較的寒い地域の森）と暖温帯林（比較的暖かい地域の森）が隣り合っていて、その境目に当たるのが1号路なのです。また、尾根や沢など様々な地形があります。各研究路によって環境が異なるので、それぞれ特徴のある葉っぱを見ることができます。

3号路

高尾山の南側にあたり、表面がつるつるしている常緑樹の落ち葉が多い。アカガシ、シラカシ、シロダモ、ヤブツバキなどがよく見られる。



シロダモ

4号路

高尾山の北側にあたり、秋から冬に色づいた落葉樹の落ち葉を楽しめる。イヌブナ、エノキ、イタヤカエデ、ホオノキなどがよく見られる。



イヌブナ

6号路

川に沿う道のため、渓流沿いを好む木々の葉と出会うことができる。オニグルミ、カエデのなかまなどがよく見られる。



オニグルミ

どこでも

針葉樹の仲間は高尾山のいたるところで見ることができる。モミ、イヌガヤ、カヤなど。



カヤ

生きもののたちの葉っぱのつかいわけ

生きものの中には、利用する葉っぱを限定しているものもいます。そんな生きものは特定の木がなければ生きていけません。ここでは、そんなワガママ（！？）な生きものたちに登場してもらいましょう。

イタヤハマキチョッキリ

名前の由来は"イタヤ"カエデ（などのカエデのなかま）の葉を葉巻（"ハマキ"）のように巻く、"チョッキリ"（という虫）という意味なのです。卵を葉にくるみながら巻き、生まれた幼虫はその葉を食べて大きくなります。



イロハモミジ

オオムラサキ

国蝶として知られているこのチョウ、幼虫のときにはエノキのなかまの葉しか食べません。この大きな蝶は、限られた種類の木が支えています。



エノキ

ヒゲナガオトシブミ

イタヤハマキチョッキリと同様に、卵を葉にくるみながら巻き、生まれた幼虫はその葉を食べて大きくなります。巻いて落とした葉の様子を昔の人が、落とした手紙（文→フミ）のように見立てたことから名前がつけられました。



アブラチャン

カラスアゲハ

オオムラサキと同様に、幼虫の時に食べる葉が決まっています。ミカンのなかまの葉を利用するのですが、高尾山ではカラスザンショウの葉が多いようです。



カラスザンショウ

生物多様性を支えるたくさんの葉



生きものが豊かな高尾山、その命を支えているのは高尾山にあるたくさんの木々なのです。そんなことを思うと紅葉も少し違った表情を見せてくれるかもしれません。今年の秋は、いつもとちょっとちがった葉っぱの見方をしてみませんか？